

学校教育目標	「確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」		
a ミッション	コミュニティ・スクールを基盤とした「向東の対話」を活かした深い学びの創造	a ビジョン	「学校と地域が協働し、子供の未来を拓く学校」

尾道市立向東小学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			m 改善案		
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
学力の向上	主体的に学び続ける児童の育成	対話的な授業づくりによる学力の向上	<p>○対話に関する児童アンケート『授業では、「むかいひがし」を使って友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。』という項目で肯定的な評価の児童と教職員の割合の平均</p> <p>単元末テストにおける平均正答率(%)</p> <p>1年 国85 算85 2年 国85 算85 3年 国80 算80 4年 国80 算80 5年 国80 算80 6年 国80 算80</p> <p>学力調査における平均正答率 12月の標準学力調査における平均正答率(%)</p>	90%	74.1%		82.3%	B	<p>【結果】質問に肯定的な評価をした児童の割合は高かったが、教職員の見取りの割合は児童の自己評価に比べて低くなっている。</p> <p>【課題】自分の考えを、自信をもって伝えられない児童がいる。そのため、グループで話す際に、対話が進まないグループも見られる。自分の考えを話したり広げたりするまでは至っていない。</p>	8			<p>自分の考えを書いたり話したりする場を設定することで、系統的に経験を積み上げていく。また、自分の考えを書いたりまとめた時間を設定し、全員が自分の考えをもつことができるようにする。自分の考えを話しやすい、学級の雰囲気や学級づくりを行う。</p>		
				<p>(2) 言葉の力の育成</p> <p>①書く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>向東小テストを活用した記述問題の指導</li> <li>日記、作文の指導</li> </ul> <p>②読む力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意味調べ、音読の充実</li> <li>読書活動の推進</li> </ul>	100%	国語科 96.9% 算数科 92.6%	94.8%	B	<p>【結果】国語科も算数科も、単元による点数の差が大きく、全体としては目標を達成していない。</p> <p>【課題】国語科も算数科も、初めて読む文章の内容を理解することが難しいと考えられている。算数科では、図形、測定、変化と関係といった領域が苦手である。</p>	8			<p>国語科では、文章の要点をまとめたり、要約をしたりする練習をしていく。また、算数科では、「問題を読む→図に表す→立式する→答えを求める」という流れを大切にしながら授業を行う。さらに、答えの見直しをもたせることで、立式や計算の手立てとする。校内研修を積み重ね、教師の授業改善につなげていく。</p>		
					全国平均以上										
生徒指導の充実	心身ともに成長しようとする児童の育成	共感的人間関係の中で健康な心と体を育てる	<p>(1) 自己肯定感を感じる学校集団づくり</p> <p>①仲間作りを意識した構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングの実施</p> <p>②児童の不安や悩みを早期発見する体制の充実</p> <p>③仲間との関わりを生み出す機会の確保</p>	95%	95.4%		100.4%	A	<p>【結果】新しい学年になり環境が変わって児童が前向きにやる気になっている。その学年も達成率が高かった。低学年の発達段階では、まだ自己中心的な思考が見られることもあった。</p> <p>【課題】構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルスキルの成果が表出するには時間がかかるが、地道に仲間作りを行うとともに、個人の不安を取り除いたりコミュニケーションのスキルを身につけさせたりしていく。</p>	8			<p>いじめアンケートや日常の児童の様子から適宜個人面談を行うことで不安を取り除いたり、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングでコミュニケーションのスキルを身につけさせたりする。また、日常的に帰りの会などで友達との良いかわりを振り返り、児童間の相互評価や教員の肯定的評価により、自己肯定感をさらに高める取り組みを行う。</p>		
				<p>(2) 自律できる児童の育成</p> <p>①各学級における生活目標達成の手立てを共有</p> <p>②掃除や係活動の充実</p>	60pt	60.8pt		101.0%	B	<p>【結果】1学期の児童会目標の達成率は、月が進むごとに減少していき、7月には80%を切るという結果であった。</p> <p>【課題】児童会の目標が全学年で日常的に意識できていない目標があった。目標内容も生徒指導年間計画と運動させて、児童の取り組みやすい生活目標や児童が自己評価できる内容を取り入れていく。</p>	7	1		<p>生徒指導年間計画と児童会目標の挨拶、身だしなみ、履き物揃えなども運動させ、児童が取り組みやすく自己評価しやすい内容を取り入れる。日常的に学級や個人で振り返り、取り組みを意識できるようにしていく。</p>	
				<p>(3) 異学年での運動遊びが楽しいと思える機会の創出</p> <p>①体育委員会・児童会の運動遊びの企画・実施</p> <p>②教員主催の体力向上を意識させる運動遊び企画・実施</p> <p>③外遊び週間の設定</p> <p>④集団遊びができる器具の整備</p> <p>⑤校舎内外でもできる集団遊びの紹介</p> <p>⑥職員研修</p>	80%	84.7%		106%	A	<p>【結果】異学年、異性関係なく遊ぶことは楽しいと答えた児童は学校平均84.7%で目標値を上回った。視点を変えると、15.7%の児童は否定的な考えをもっている。</p> <p>【課題】対人的コミュニケーションの難しさ、外遊び自体に否定的な考えをもっていることが考えられる。</p>	8			<p>構成的グループエンカウンターで育んだ関わり合いを基に、気候を考慮して場所を選択し、運動遊びを少しでも「してみよう。」と思えるように、児童・教員が企画を工夫し実施する。上下関係のある中で自分の役割を考えながら行動しつつ、共感的人間関係を育み、温かい雰囲気や活動の目標を、器具の整備や運動遊びの紹介を推進し、体を動かす機会を創出する。目標値を85%に上げる。</p>	
信頼される学校づくり	地域と共に育つ児童の育成	学校と地域の協働の向上	<p>○児童アンケート「地域のことが好き」と答える児童の割合</p> <p>○児童アンケート「他の学年の人や男女関係なく遊ぶのは楽しい」と答える児童の割合</p>	91%				99.7	B	<p>【結果】「地域のことが好き」と答える児童の割合は、91%と高く「公園で遊ぶのが楽しい。」「地域の方が優しい。」といった意見が聞かれた。また、「地域のために活動した。」と肯定的に答える児童の割合は、目標値を達成できていない。</p> <p>【課題】「地域のために活動した。」という項目において、児童が「地域のためにする活動」は特別なものだと考えている可能性がある。</p>	7	1		<p>自分達の元気の良い挨拶やちょっとしたゴミ拾いなどが地域に良い影響を与えることを学校の指導の中でも意識付けていくようにする。</p> <p>また、150周年記念事業の中で、向東地域のことをより良く知り、調べ学習を行ったりして、学びを深めていく。</p>	
				<p>(1) 地域の特色を生かした授業や地域とつながる授業の実施</p> <p>①各学年が設定した学びの場(生活科・総合的な学習の時間等)</p> <p>②地域へ出かけての学習</p> <p>③ゲストティーチャーを招聘しての授業</p>	80%	78.5%									
				<p>(2) 学校の取組に係る保護者・地域への発信</p> <p>①学校便り・HP</p> <p>②CS便り</p> <p>③学級懇談会・入学説明会等</p>	80%	90.8%		113%	A	<p>【結果】208件の家庭から回答を頂いた。そう思う(139) ややそう思う(50) あまりそう思わない(5) そう思わない(1) 分からない(13) となった。保護者のコメント欄には、「先生以外の人と関わりを持っているのは貴重だと思います。」といった感謝の気持ちが多く見られた。</p> <p>【課題】10%弱の方に積極的な活用についての理解が周知し切れていないので、積極的な情報発信を心掛けていく。</p>	8			<p>活動内容については、「学校だより」を通じて紹介している。今後は、保護者連絡アプリ「コードモン」を通じた発信なども視野に検討していきたい。また、今回のアンケート結果をボランティアの方々にも伝えられるようにしていく。</p>	

【自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成)  
B: 80≦(ほぼ達成) < 100  
C: 60≦(もう少し) < 80  
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。